

原子力安全のための耐津波工学に関するシンポジウム
「原子力安全に対する学術の役割・責任」
に関するパネル討論

2014年3月20日
建築会館にて

コーディネーター・亀田弘行

* 委員会の目的

- 1) 原子力発電所の津波防御のための工学技術の体系化
- 2) リスク論に基づく原子力発電所の地震・津波安全評価体系の明確化
- 3) 地震工学、津波工学、原子力安全工学の分野横断的討議をふまえた総合的視野の構築
- 4) 以上を包含する地震・津波に対する原子力安全実現の枠組みを「耐津波工学」として体系化する

* 委員会における討議の要点

- ・「事実」と「論理的整合性」を重んずる科学的な視点
- ・国際的視点
- ・現行規制の枠組みに捕われない

* パネル討論の目的

- 本シンポジウムでは、学術の使命との認識のもとに、行ってきた委員会活動の状況を報告した。
- 工学は社会に貢献してはじめて意味がある。
- 原子力安全に関する学(学会、研究者)の役割・責任への注文・提言をいただきたい。

* PDの進め方

- パネリスト、フロアのからの問題提起
- 委員会として受け止め
- 幹事会でまとめ／課題抽出／委員会で討議
- 報告書(総説、第11章)に反映